



# 議会だより



## 子育て支援住宅 『どんぐり』

風水にふれる里

第 **104** 号

2015. 7

### もくじ

5月臨時会	2P
6月定例会・議員提案	3P
一般質問	4~7P
新正副議長から一言	8P
新人です!!どうぞよろしく!!・東京中央要望	9P
村で最も大事な子育て支援	10P

発行／  
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地  
大蔵村議会 0233-75-2111  
編集／議会広報調査特別委員会 年4回発行  
印刷／共栄印刷株式会社

# 5月臨時会報告

**臨時会とは・・・**  
定例議会の他に急を要する事業等を審議する会議のことです。

このようなことが審議されました。

## 議会の構成

- 議長 鈴木 君徳
- 副議長 加藤 忠己
- ◎総務文教常任委員会  
委員長 長南 正一
- ◎産業建設常任委員会  
委員長 八鍬 信一
- ◎議会運営委員会  
委員長 中島 幸夫



## 最上広域市町村圏事務組合議会議員

- 鈴木 君徳
- 矢口 智
- 長南 正一
- 佐藤 勝

## 議案の審議

### 専決処分との承認

**専決処分とは・・・**  
急を要する事業を許容範囲内で村長が決定し議会の承認を得ること。

本臨時会では、条例の改正3件、26年度予算8件、27年度予算1件がありました。

- ①平成26年度大蔵村一般会計補正予算(第12号)
- ②平成26年度大蔵村国民健康保険特別会計補正予算(第3号)
- ③平成26年度大蔵村簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)

## 請願

### 請願第1号

TPP交渉に関する請願  
結果 採択  
農民運動山形県連合会  
会長 花鳥賊 義廣

### 請願第2号

年金積立金の安全かつ確実な運用に関する請願  
結果 採択  
連合山形新庄最上地域協議会  
議長 渡辺 裕一

### 請願第3号

教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る請願  
結果 採択  
山形県教職員組合最上地区支部  
支部長 伊藤 充弘

## 6月定例会

6月定例議会が9日から10日にかけて開催されました。27年度補正予算3議案を含め、5議案を原案通り可決・同意。議案審議に先立ち、4名が一般質問を行い村長と活発な議論を交えました。

### ☆大蔵村長等の給与の特例に関する条例の設定

(村長、教育長の給料を減額するものです)  
☆**新庄市との新庄最上定住自立圏形成協定の締結**  
(新庄市と大蔵村は、定住自立圏の形成に関し、協定を締結するものです)



## 補正予算

☆平成27年度大蔵村一般会計補正予算(第2号)  
☆ // 大蔵村へき地診療所特別会計補正予算(第1号)  
☆ // 大蔵村介護保険特別会計補正予算(第1号)  
(単位:千円)

	補正額	総額	主な補正内容
一般会計	5,500	3,676,000	銅山川水力発電事業出資金、子育て世帯臨時特例給付金の追加等
診療所	1,418	239,418	職員手当等の追加等
介護保険	△683	377,617	職員給料、共済費の減額等

## 補正予算

26年度 一般会計及び特別会計 (単位:千円)

	補正額	総額	主な補正内容
① 一般会計	140,000	3,820,000	公共施設等整備振興基金積立金の追加等
② 国保会計	△26,829	446,421	一般被保険者療養給付費の減額等
③ 簡易水道	△4,600	110,566	除雪業務委託料の減額等
④ 下水道	△2,700	152,157	修繕料の減額等
⑤ 診療所	△2,657	202,672	医薬材料費の減額等
⑥ 介護保険	△4,368	387,927	施設介護サービス給付費の減額等
⑦ 浄化槽	△449	33,187	修繕費の減額等
⑧ 後期高齢者医療	△2,936	30,060	保険料等負担金の減額等

27年度一般会計 (単位:千円)

	補正額	総額	主な補正内容
一般会計	500	3,670,500	融雪遅延対策除雪事業費補助金の追加

## 議員提案

### 内閣総理大臣・各担当大臣に意見書提出 (趣旨)

#### ☆TPP交渉に関する意見書

1. TPP交渉に関する国会決議を遵守し、守れない場合は、交渉から撤退すること。

#### ☆年金積立金の安全かつ確実な運用に関する意見書

1. 年金積立金は、厚生年金保険法等の規定にもとづき、専ら被保険者の利益のために、長期的な観点から安全かつ確実な運用を堅持すること。  
2. これまで安全資産とされてきた国内債券中心の運用方法から、株式等のリスク性資産割合を高める方向での急激な変更は、国民の年金

制度に対する信頼を損なう可能性があり、また国民の財産である年金積立金をき損しかねないため、行わないこと。

☆教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書  
1. 少人数学級を推進すること。当面、小学校1・2年を35人以下学級とし、早期に全学年に拡大すること。

2. 教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、義務教育費国庫負担制度の負担割合を2分の1に還元すること。

# 一般質問



長南 正一 議員

## さらに魅力アップ 肘折朝市

村長 関係者の方向性を1つに

**問1** 新緑の季節と共に肘折温泉が活気づく。その一翼を担っているのが朝市。旅館前の路上での販売には、山菜や地元農産物そして加工品等盛りだくさんの品数が所狭しと並べられ、買い物を楽しむ大勢の温泉客との和気あいあいの交流は、肘折温泉誘客推進の原動力ともなっていると思う。

しかし、その朝市の開催時間帯に始発の定期バスが通過することで、買い物客



が一時退避せざるを得ない。降雨時には販売側、買い物客双方傘を差しながらの市場となり非常に環境が悪化する。これらの事態改善を図り肘折朝市がさらに快適な市場となり、楽しみと憩いの場を提供することでより一層の誘客につながるよう手立てを講ずるべきではないか。

**答1** 朝市は、肘折温泉の名物として定着し、地域観光資源として欠かせないもの。その運営方法については、その都度関係者で議論してきたが、始発の定期バスの問題、雨対策については現在のところ解決に至っていない。去る4月13日にも関係団体代表者による協議の場に担当職員を出席させ、今後の対応を検討した。現在の場所では始発の定期バスが通るたびに移動が必要であり、そのため、定期バスが通っても支障がない比較的道路幅が広い「上の湯」からバス待合所までの間に変更すること、議論されたが商店との

相乗関係があり難しい状況。また、場所を現在のままとし、始発の定期バスの出発地を「肘折いでゆ館」発に変更する案も始発を毎日利用する通学高校生、県立新庄病院等に通う高齢者等の理解が必要であり、陸運局との路線の変更協議が必要で、認可には5ヶ月以上かかる見込み。

次に、雨よけ対策だが、売る側が雨に当たらなければよいという問題ではなく、買う側、観光客も傘がなくても楽しく相対の会話が出

来る環境を考えなければならぬ。雨よけシールドを設置することも検討したが難しいため、軽量で簡単に設置できる簡易テントの設置を提案している。

いずれも、朝市組合、肘折温泉関係者の方向性を1つにした上で、村としてできる支援を検討する。



**問2** 観光協会の総会に出席した際、山形交通の関係者とも協議したが、始発便の出発地の変更は可能との見解。要望するべき。

**答2** 肘折三地区代表の意見を伺った結果、天狗鼻橋付近（銅山川向）を出発地として検討していく。

## 雪だるまの話

村長 第3次総合計画の遂行を基本に



矢口 智 議員

**問** 3月の雪明りイベントで作成した雪だるまが、だんだん小さくなり、黒く汚れて醜く感じてならない。それがどこかの雪捨て場から思うこともないのだろうか。観光地の村を代表する施設の目の前だからかも知れない。私だけなのだろうか。

話しは変わって壊れた空き家。村内でもすいぶん目立ってきたが、持ち主への指導・勧告以外の対策方法は今のところない。村は直接手出しをしないと聞いているが、毎日その痛ましい姿を見る住民にとっては耐え難い気持ちでいっぱい

はないだろうか。まして、その家の歴史を知る人ならなおさら。又、壊れて傾いた看板、潰れたガードレール、道路沿線の枯れた木。村全体の景観を総合的に考えなければと思うがどうか。訪れる人がっかりさせない配慮が必要。それ以上に村に住む人が快適に暮らせるよう配慮することが最も大事。国や県の方針にとらわれず、村独自の施策を打ち立てる気構えが欲しい。

改めて村全体の景観を考えよう。訪れる人の側に立って。各課の枠を超えて。

**答** 雪国に暮らす私たちにあって、春の訪れは何よりも嬉しいもの。「おおくら君」も春風に乗って運ばれる土ボコリなどで黒く染まってしまったのでしようが、四季折々の自然の成す業に、一喜一憂の思いがします。そう言う意味では、黒い雪だるまも又一興ではないかと感じている。

さて、空き家の件ですが、村内を見ると一部に既潰れたものや壊れてしまったものなど大変残念なものも見受けられる。

しかし、村が主体となつて廃屋などの取り壊しや処理などは、実施するべきではないと考えている。個人財産であり権利関係などの問題もあり、仮に景観に配慮して村で対応したとしても、今後離村される方が、家屋の解体は何れ村でやってくれるものと拡大解釈し、逆に空き家が増える要因のひとつになりかねないと思





佐藤 雅之 議員

### 子ども医療費無料化 高校まで

村長 住民の声を聞きながら

問 少子化・人口減少のなか、本村は県内でもいち早く中学校卒業までの子どもの医療費援助（無料化）を行ってきた。県内ほぼ全ての市町村が、中学校卒業までの通院・入院の「無料化」策をとるに至っている。こうした到達を踏まえ、いままでも踏み込んで、高校卒業までの子どもの医療費援助（無料化）を村に求める。

答 大蔵村は、県内でも先駆けて医療費の無料化や、各種予防接種の無料化など子育てしやすい環境の整備を進めてきた。国の制度と異なる場合、交付金の減額というリスクを背負いながら、小さな村だからこそ出来る、村民の方々の顔が見える福祉の向上に取り組んでいる。



大蔵村診療所

### 観光客回復の手立ては

村長 おもてなしのレベルアップを

問 入湯税ベースで見た本村の観光客数は長期的に減少傾向を示し、とりわけ平成23年に発生した東日本大震災、その翌年に発生した主要地方道戸沢大蔵線崩落後は、宿泊、日帰り客を合わせてもおおよそ7万5千人から8万7千人と低水準で推移している。観光客の回復をどう図るのか。

答 村では、新たな湯治スタイルの確立や首都圏からの誘客を図るため、空旅の旅行商品として「七治里暮らしの旅」の提案や、地域消費喚起・生活支援のためプレミアム旅行券を含む4千万円を予算計上し観光事業のてこ入れをしている。県でも、ふるさと山形四季旅事業「山形日和」旅行券

で、額面1万円の宿泊券を肘折温泉分として、特別枠で3,000枚の発売をいただく予定。  
しかし、行政による支援には限界があるし、個々の旅館、商店の取り組みへの温度差も感じられる。こうした危機的状況を打開するには、まずは、旅館、商店、住民のオール肘折で「おもてなし」のレベルアップをすることが最も重要と考えている。

### 「養豚場問題」は完全決着したか

村長 畜産事業の推進は必要

問 昨年村内で大きな問題となり、住民の間でも「反対運動」が起きた「今小屋地区」への大型養豚場受け入れ問題は、昨年12月4日に村長が議会全員協議会の場で受け入れはしないと明言し、関係者に伝えたと聞き及んでいる。この村長の発言をもって、問題は完全

に決着したと解してよいか。  
答 今小屋地区における大型養豚事業受け入れは、昨年12月4日の議会全員協議会において、本事業の受け入れをしない旨の説明を行い、議会も全会一致で了承。反対表明の地区代表にも報告済。養豚場問題は完全決着したと考える。

現状を見る限り、人口を増加に転じることは困難なことと思うが、減少率をいかに緩やかにできるか。子ども達を増やすためにどう

するか。さらに、住民福祉を向上させ、安心して暮らし続けられる村づくりを今後も真剣に考えていく。

### 村の「消滅可能性都市」の対策は

村長 少しでも減少率を緩やかに



早坂 民奈 議員

問 民間研究機関「日本創生会議」が2040年の人口推計結果で、子供を産む世代の若年女性が10年後には5割以下となる急激な人口減少で、自治体機能の存続が難しくなる「消滅可能性都市」を発表した。県内でも35市町村のうち8割の28市町村が対象となり、人口が減れば納税も減り、村の機能に支障をきたす。「消滅可能性都市」と地方創生をどのように受け止めているのか。

答 人口の減少は、村の衰退に直結する重要な課題のため、地区座談会のテーマを「人口減少社会に対応し

### 青少年のネット依存どう防ぐ

村長 家庭での取り組みが一番

教育長 家庭・学校・行政が一体となって

問 最近、スマホやインターネットによる依存症や事件が多々報道されている。厚労省の全国の中高校生を対象に行ったインターネット依存のアンケートの結果「依存の疑いが強い」と分類された中高生は全体の8%（約52万人）と推計されている。ネット依存は未

来を担う青少年健全育成の妨げになるため啓発や対策が必要と考えられるが、村長、教育長の見解を伺いたい。  
答 啓発活動の必要性は認識しているが、その対策

合いの場を設け、保護者と学校が互いに児童生徒の利用に関する情報の共有化に努め、そのほか、外部より講師を招いて保護者や生徒を対象とした安全なインターネット利用の研修会を開催している。また、アンケートでの実態把握等、予防・トラブル防止対策に繋がる啓発活動を行っている。  
家庭・学校・行政が一体となって、子ども達の健全な育成とともに、安全に、安心して成長し、学び合える環境づくりに努めていく。



議長就任のあいさつ



議長  
鈴木君徳

この度の議会議員改選におきまして、議長に就任することになりました。

議長としての責任の重大さを痛感しているところがございます。これから議会活動の機能を十分果たし、村政の進展に力を入れて参りますので、村民の皆様にはより一層のご理解をお願い申し上げます。

また、議会においては、常に緊張感を持って、住民の声を重視していきたいと考えております。

村の経済情勢は、本

当に厳しいものがあり、その中でも、農業、少子化対策、子育て支援、商工観光等、議会として解決すべき諸問題に対応しなければならぬと考えております。

議員一同、様々な問題に地域住民との対話の中で解決し、住民福祉の向上に職責を全うする覚悟であります。

本村の発展のため、村民皆様方の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

副議長就任のあいさつ



副議長  
加藤忠己

この度、副議長に就任する事になりました。その責任の重さを痛感しております。

議長との補佐役として、議会の公正かつ円滑な運営を心がけ努力してまいります。

現在全国の地方自治体は多くの課題が山積しております。中でも「少子高齢化」「人口の減少」という共通の問題を抱えており、本村においても例外ではなく、地方創生を見据えて独創的な考えと行動が求められる時であり企画力、提案力が求められます。

将来にわたり、村民が安心・安全に暮らせる魅力ある豊かな村づくりを目指していかねばなりません。

「議会は何をやっているのか分からない」と言われるのは、村民との対話が少ないからであり座談会等開催し、村民と議会との距離感をなくし、さまざまな立場の人の意見を聞き、村民の負託に答え信頼される議会に向け誠心誠意取り組みたいと思っております。

新正副議長から一言



新人です!! ゼンインより!!

初議会を終えて



早坂民奈

初めて尽くしの議会は、緊張の連続でした。たくさんの方が傍聴に来てくださり、つたない質問にがっかりされたかもしれないと考えると、とても心配しましたが、まずは初めての事と大目に見ていただきたい。

さて、議会特有の緊張感の中で、慣れていないせいもあるが、議員の椅子の座り心地の悪さは格別です。特に私だけの感想でしょうか。先輩方の落ち着きには程遠く、本当に疲れます。いろんな答弁もメモするのがやっとな。

大蔵村は第二の故郷



佐藤雅之

私は4年前、自然豊かな大蔵村に魅かれ移住してきました。俗にいう「よそ者」です。日本の人口が急速に減り続ける中、「先祖代々」という価値観が、今日様々な意味で変容を余儀なくされていると私は思います。

従来の視点だけでは「後継者」と呼べる人がみだじらう時代ではないでしょうか。

よそから来て、「大蔵村を第二の故郷」と呼べる人々も加わって魅力を引き出してゆく、この様な発想が求められる時が来ていると、私は感じています。伝統を軽んじるといってではなく、伝統にさらに彩りを添え、継承してゆく「過渡期」だと考えています。

これからのたくさんの失敗を吸収し、皆さんの想いを村政に活かすために、もっともっと勉強し、何ができるか模索しながら、成長したいと思っています。どのようにならなりたいか、ぜひ傍聴に来て下さい。



私は、一部の「地方消滅論」に実践で反論すべく、若者、よそ者の視点も取り入れた村づくりを皆さんと共に進めてゆきたいと考えています。



委員会の構成等

平成27年5月1日現在

委員会等名	委員長	副委員長	委員		
議会運営委員会	中島 幸夫	海藤 邦夫	長南 正一	八鍬 信一	
総務文教常任委員会	長南 正一	海藤 邦夫	鈴木 君徳	佐藤 勝	佐藤 雅之
産業建設常任委員会	八鍬 信一	中島 幸夫	矢口 智	加藤 忠己	早坂 民奈
議会広報調査特別委員会	矢口 智	佐藤 勝	早坂 民奈	佐藤 雅之	

最上広域市町村圏事務組合議会議員	鈴木 君徳	矢口 智
議会選出監査委員	長南 正一	
議会推薦農業委員	佐藤 勝	(~ H29.7.19)

5月1日に村議会5月臨時会(初議会)を開催し、議長・副議長を選任後、各委員会等人事が決定されました。

東京中央要望

6/22~23

村では、近年大型の公共事業が続いています。国道458号の改良工事も終盤を迎え形が見えてきています。こうした事業の他に肘折地区の道路災害復旧事業や大型の農業関係事業など、県や国の支援が無くては少しも前に進められないものばかりです。村民の要望にこたえるためにも、県や国への働きかけは絶対欠かせない状況です。

東京の衆参議員事務所を訪ね要望活動を行ってきました。ちょうど今国会は安全保障関連の法案の関係で大荒れという緊迫した雰囲気で大忙しでしたが、地元選出の衆参国会議員共に忙しい合間をぬって時間を取ってもらい、村の重要課題の説明、事業の早期進展を強く要望することが出来ました。また、国土交通省の道路や河川整備の直接担当部署にも挨拶させていただくこともでき、充実の二日間となりました。



# 村で最も大事な 子育て支援



## 子育て支援住宅「どんぐり」の概要

- 第1期（10世帯）平成24年3月完成
  - 第2期（5世帯）平成27年3月完成
- 合計15世帯（入居者数53人）

- 総事業費：約3億700万円（土地購入費含む）
- 敷地面積：約4260㎡
- 間取り：木造2階建 3LDK（94.4㎡）

- 光熱設備（IHクッキングヒーター・蓄熱式暖房）
- 駐車場 2台
- その他 県産木材使用
- 入居者の状況：15世帯のうち、村外からの転入が10世帯（約7割）



小学生は現在少ないが、保育児童・乳幼児は20人を超えている。  
学校、医療機関も近いし、駐在所が目の前であり防犯性も高い。

- 入居期限：村では、末の子供が小学校卒業までとする入居期限を設けている。最も早く期限がくる世帯で9年後と予想。
- これから：村では、住宅退去後の住居確保のため宅地の整備を計画している。また、第3期（5世帯）の子育て支援住宅建設の計画がある。



### 9月定例議会は9月8日(火)～11日(金)の予定です!

村民皆さんの傍聴をお待ちしています。

委員長 矢口 智  
副委員長 佐藤 勝  
委員 早坂 民奈  
委員 佐藤 雅之

#### 議会広報調査特別委員会

皆様のご意見をお聞かせください。  
(矢口 智)

あれから4年。新しい議員を迎えて議会も広報編集も新たなスタート。従来の形にこだわらず、自由な発想で面白い紙面づくりに挑戦したいと考えています。どうぞよろしく。

えりますね。

た。議会の改選期でしたが、被災地の悲惨な状況と今まで経験したことのない大きな不安をかかえ、途方に暮れたような毎日を送っていたことを思い出しています。今BSテレビで「あまちゃん」を放映中。泣いて笑って、「あきちゃん」にずいぶん力づけてもらった記憶がよみがえりますね。



ちょうど4年前の3月11日に大震災が発生し、燃料や食料の供給が途絶え大変な毎日を